

港区道等のいちょうの移植検討のための調査について

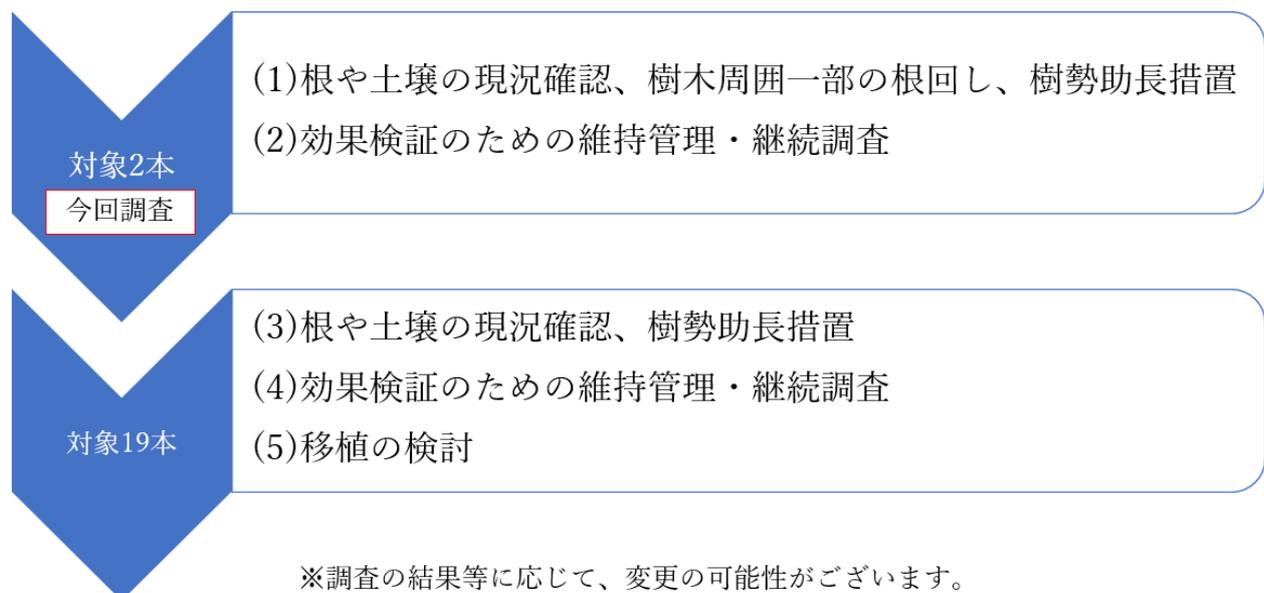
秩父宮ラグビー場の東側に所在する港区道等のいちょうについては、環境影響評価書にお示ししましたとおり、詳細調査等を行った上での移植を検討することとしておりますが、この度、樹木医等専門家の立ち会いのもと、以下のとおり移植検討のための調査を実施いたしますのでお知らせいたします。

なお、調査結果の概要等については、東京都環境影響評価審議会に報告を行うとともに、公式ウェブサイト等を通じて公表することとしております。

1. 調査概要

秩父宮ラグビー場の東側に所在する港区道等のいちょう 19本の移植を検討するにあたり、まずいちょう2本に対し、樹木医等専門家の立ち会いのもと、根や土壌の現況を確認した上で、樹木周囲の一部の根回しと樹勢助長措置を試験的に実施いたします。その後数年にわたり、維持管理と継続調査により根回しや樹勢助長措置の効果を検証した上で、残りの17本を含む19本に対して最適な樹勢助長措置を実施し、さらに全19本を対象に維持管理と継続調査を行い、その結果を踏まえて移植を検討します。

【移植検討の流れ】



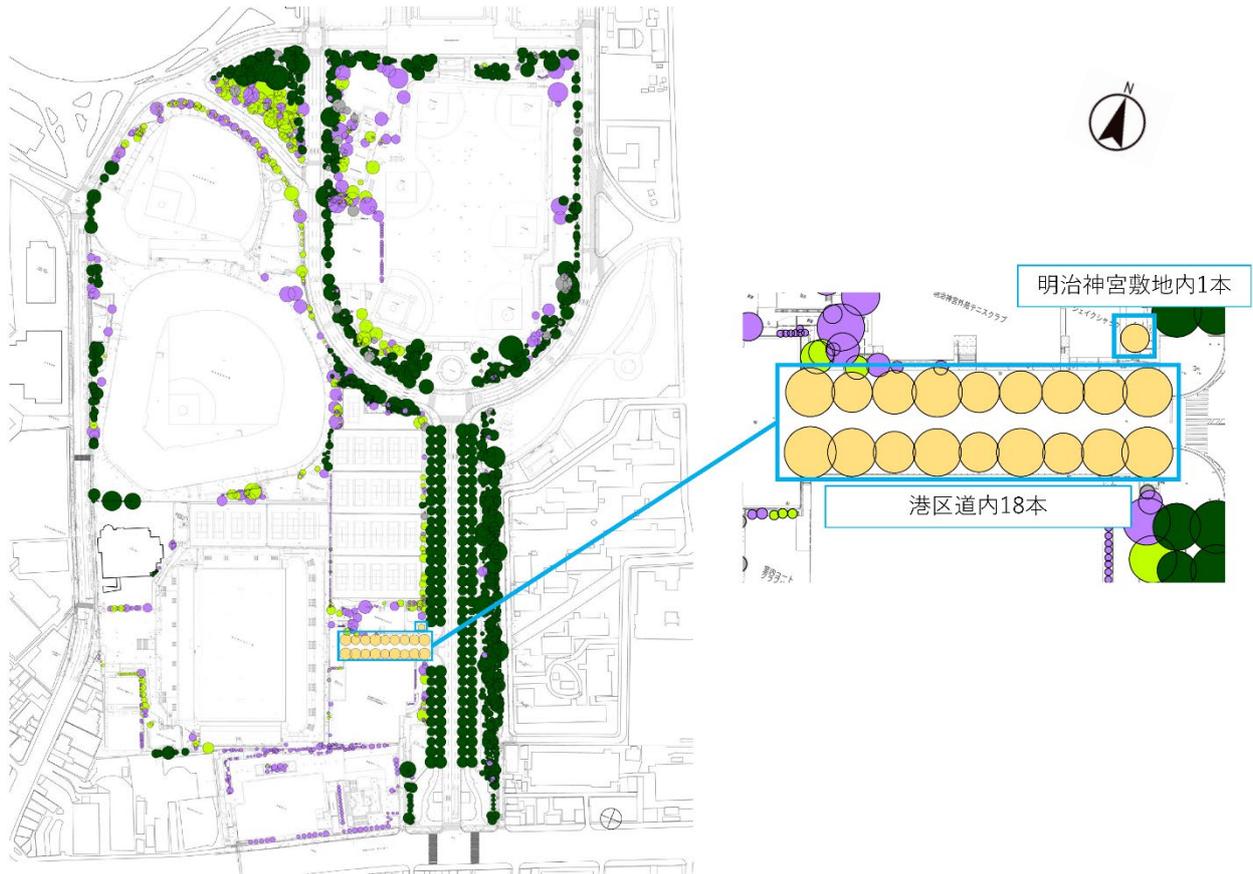


図1. 港区道等いちよう位置図

2. 調査時期

2025年2月（予定）～

3. 調査会社

イビデングリーンテック株式会社

4. 調査対象

樹木医等専門家の意見を参考に、また通行の妨げにならないよう配慮した上で、北側と南側で環境が異なる2本（既存樹木調査データ内：西22・西15）を対象といたします。

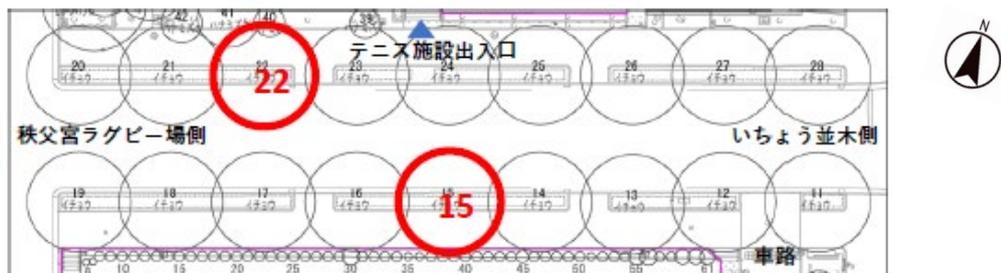


図2. 調査対象位置図

5. 調査方法・措置

(1) 根や土壌の現況確認

舗装・碎石を撤去し、歩道や車道に伸びている根や土壌の状況、一部舗装下の根系の密度や伸長状況を調査します。

(2) 樹木周囲の一部の根回し

根回しを実施した場合の効果（根の発根状況等）を測定するため、歩道側の太根の一部を環状剥皮し、樹木周囲の一部について根回しを実施します。

環状剥皮とは、ある一定の太さの根の表皮を形成層まで剥ぎ、剥皮部より発根を促し、移植時の根の切断に伴う樹木への負担を軽減するための方法です。

(3) 樹勢助長措置

歩道側の碎石中に伸長していると想定される根の環境を改善し、根の発根や伸長を促すため、根を残しながら碎石を人力またはエアースコップ等で撤去し、良質土に入れ替えた上で、稲ワラマルチを敷設します。また、いちょうへの水分供給を改善するため、調査範囲のヘデラ・下草は除去いたします。

(4) 維持管理・継続調査

(2)と(3)の効果を検証するため、発根調査、外観診断、デンドロメーターによる幹周変化の比較等を実施いたします。

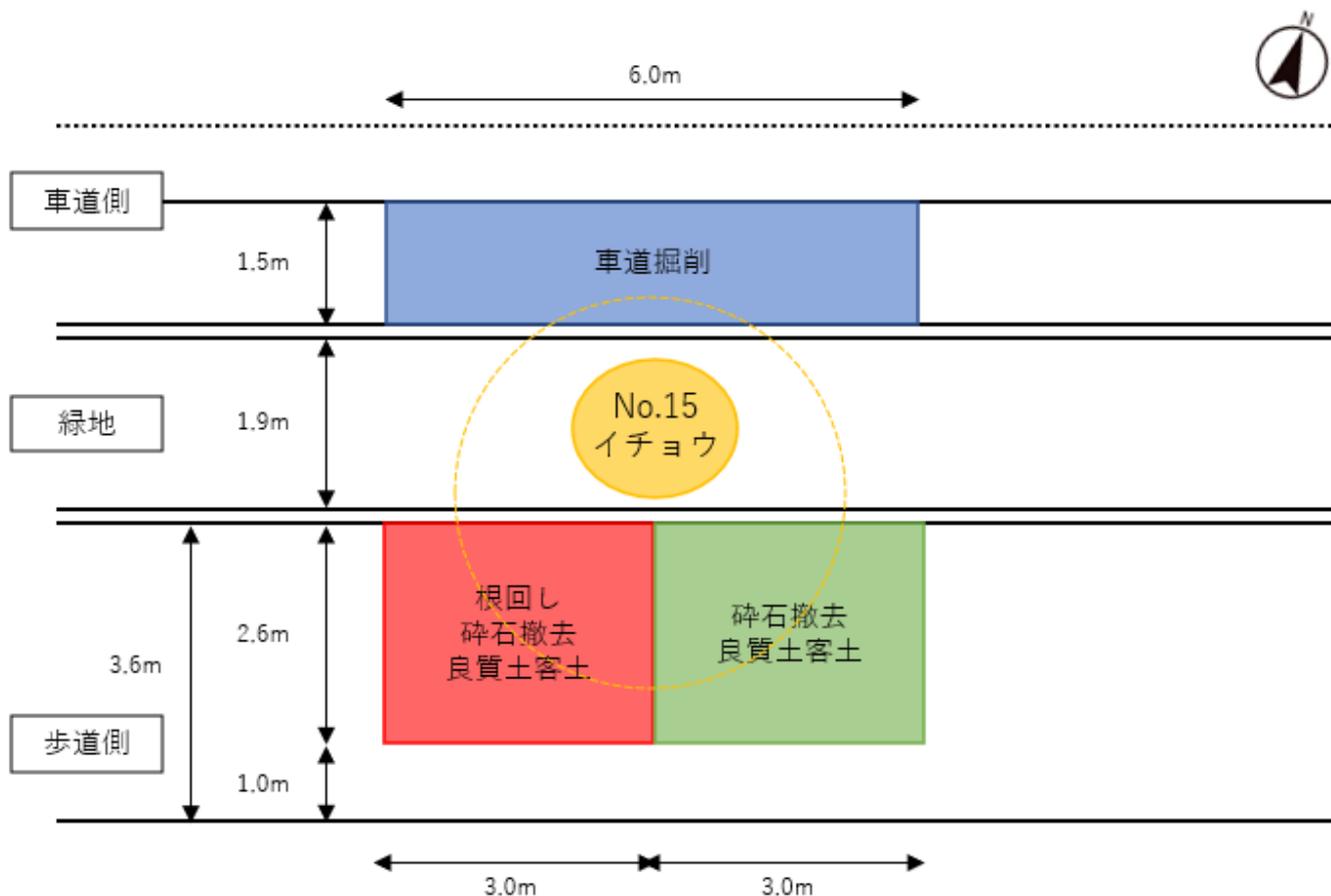


図3. 措置の範囲図 (No. 15)

6. その他

本調査に関するお問合せは、神宮外苑地区まちづくり準備室 (TEL: 03-6695-0539) まで、お願いいたします。現地では調査作業の安全管理を優先し、事業者による許可のない見学および現地における直接のお問合せに関する対応はいたしかねますのでご了承ください。

以上